

平成29年度第1回契約監視委員会 議事録

1. 日 時： 平成29年6月21日（水） 13：30～16：30

2. 場 所： 国際農林水産業研究センター本館2階 特別会議室

3. 出席者： 柿内委員、坂本委員、北條委員 （岡野委員 欠席）

4. 審議案件

- (1) 平成27年度【競争性のない随意契約】一覧（右欄：平成28年度契約実績（4月～3月））
- (2) 平成28年度第1四半期～第4四半期における【競争性のない随意契約】一覧
- (3) 平成27年度契約で【一者応札・一者応募】であった案件及び平成28年度の契約状況
- (4) 平成28年度（第1四半期～第4四半期）契約で【一者応札・一者応募】であった案件
- (5) 2年連続して【一者応札・一者応募】であった案件一覧
- (6) 2年連続して一者応札・一者応募であった案件の点検表（第1四半期～第4四半期分）
- (7) 平成28年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画にかかる自己評価
- (8) 平成29年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画（案）
- (9) その他
 - ・平成29年度契約監視委員会開催年間スケジュール

5. 議事概要：

事務局から、人事異動における新任の挨拶と議事次第の説明を行った。
柿内委員を委員長とし、契約担当者から以下のとおり議題内容の説明があり、その審議が行われた。

- (1) 平成27年度に【競争性のない随意契約】を行った17件の契約で、平成28年度契約した同じ契約案件で【競争性のない随意契約】を行った件数は10件であった。
また、平成28年度4月から3月までに【競争性のない随意契約】は19件であったことの説明が行われ、審議し了承された。
なお、前回の契約監視委員会において委員から要請のあった「予定価格及び落札率」資料表示について、今回の様式により追加表示した旨の報告があった。
- (2) 平成27年度から2ヵ年連続して【一者応札・一者応募】となったものは8件あり、それ以外で数社が入札参加となった案件が1件、一般競争不調のため随意契約へ移行1件及び随意契約へ移行の1件があったことの説明が行われ、審議し了承された。
- (3) 平成28年度第1から第4四半期に実施した入札の結果、【一者応札・一者応募】となったものは26件であった。
また、平成28年度【一者応札・一者応募】が前年度の19件から増えた理由として、複数年契約の初年度であり全体的に契約件数の増加があったことの説明が行われ、審議し了承された。

(4) 平成27年度から2ヵ年連続して【一者応札・一者応募】となったものは8件であり、一覧とフォローアップ票で説明が行われ、審議し了承された。

なお、審議の過程で次の意見があった。

- ① 平成27年度に契約を行った委託費について、平成28年度に契約がなくなった案件は研究が終了したのかという質問に対して、研究が終了した契約案件が全てではなく研究課題が変わったものもあるとの説明があった。
- ② 案件によっては複数年契約を行っているが、単年度契約から複数年契約に移行する旨の規定はあるかという質問に対して、複数年契約に移行する旨の特段の規定はないが、複数年契約を行うことによる事務合理化（簡素化）及び業者の応札意欲助長を目的としているとの説明があった。

(5) 「平成28年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画にかかる自己評価」について評価指標、業務実績及び自己評価の説明が行われ、審議し了承された。

(6) 「平成29年度国立研究開発法人国際農林水産業研究センター調達等合理化計画（案）」の説明が行われ、審議し了承された。

なお、調達等合理化計画審議の過程で次の意見があった。

- ① 自己評価は「より透明性が深まった。」や評価指標を数値で表示し「達成した。」と記入した方が一般のひとから見たとところわかりやすいのではないかとの意見があった。
- ② 自己評価の結果を第三者（監事、監査室長）に見てもらう仕組みにしてはどうかとの意見があった。
- ③ 計画を作成するに当たっては、出来ることならば数値で目標を作成し、結果何パーセント達成したといった表示がわかりやすいのではないかとの意見があった。

(7) その他

事務局から次回契約監視委員会は11月か12月に開催すること連絡がされた。

以 上